

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	《雨水対策事業》						担当部	都市建設部		
	会計区分	一般会計			事業類型	施設整備系		担当課	河川課		
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	河川係		
	総合計画 分野別計画	主目的	5 都市基盤		26 河川・水路		2 雨水貯留施設を整備する				
		副目的									
	予算区分	款	8	項	3	目	3	大	4	中	
	根拠法令・個別計画	特定都市河川浸水被害対策法、新川流域水害対策計画									
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	河川改修には長い年月が必要であるため、総合治水の視点から、雨水を下流に排除するだけでなく、その場に貯めることで流出の抑制をし、浸水被害を軽減する。									
	内容 (手段)	<p>公共施設(公園、学校等)でその地区に適合した貯留方法・規模により貯留浸透施設を設置する。</p> <p>また、ため池や水田など農業関係施設を利用した雨水貯留も実施し、平成25年度末までに247,000㎡の雨水貯留量の確保を目標とする。</p> <p>雨水貯留施設のみで専用の土地を確保することは非常に困難であるため、公共用地及び民間の水田を目的外で使用できるように、他課との調整や土地所有者への説明、協定書の締結等を実施する。</p> <p>○平成24年度実施内容</p> <p>【委託業務内容】 サンハイツ児童遊園雨水貯留施設設計業務 (委託料:3,009千円) 地下貯留施設 210m3</p> <p>【工事請負内容】 新庁舎雨水貯留施設工事(平成23年度繰越) (工事費:44,595千円) 地下貯留施設 2ヶ所(846+138=984m3) 応時中学校雨水貯留施設工事 (工事費:15,241千円) 表面貯留 518m3</p> <p>【財源】 社会資本整備総合交付金(補助率1/3) 16,050千円 流域貯留浸透施設整備事業債 21,600千円</p> <p>○平成25年度実施内容</p> <p>【委託業務】 委託料:4,000千円 早苗公園雨水貯留施設設計業務 地下貯留施設 約1,500m3</p> <p>【工事請負】 工事費:75,100千円 上新町地区(地下貯留570m3)、サンハイツ児童遊園(地下貯留210m3)</p> <p>【件移転補償費】 移転補償費:1,000千円 水道管等地下埋設物</p> <p>【財源内訳】 社会資本整備総合交付金(補助率1/3) 14,700千円 流域貯留浸透施設整備事業債 26,400千円</p>									
	受益者負担	無									

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	32,623	33,545	62,845	80,100	
		正職員	従事者数	人	0.30	0.30	0.30	0.60
			人件費	千円	1,599	1,599	1,599	3,198
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	34,222	35,144	64,444	83,298		
	対前年比	%		102.6	183.3	129.2		
財源	一般財源	千円	34,222	12,744	26,794	42,198		
	国・県支出金	千円	0	8,000	16,050	14,700		
	その他財源	千円	0	14,400	21,600	26,400		

業 績	活動指標名		単位	H22	H23	H24	H25
	施設設置件数	件	目標	1	0	2	2
			実績	1	0	2	
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				
	成果指標名		単位	H22	H23	H24	H25
	雨水貯留量	m <sup>3</sup>	目標	250	0	1,502	780
			実績	259	0	1,502	
公共施設の総雨水貯留量	m <sup>3</sup>	目標	244,600	245,300	246,200	246,980	
		実績	244,721	244,721	246,223		

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	事業の達成状況	平成23年度から進めてきた、小牧市役所新庁舎貯留施設(地下貯留 984m <sup>3</sup> )及び平成24年度には、応時中学校のグランド(表面貯留518m <sup>3</sup> )に雨水貯留施設の整備を行ない、当該地区の浸水被害軽減を図った。 また、公共施設の総雨水貯留量が平成24年度末に246,223m <sup>3</sup> になった。			
		事業実施における課題	浸水被害が雨水貯留施設設置により、どのように軽減されたか判りやすく検証する必要がある。 また、雨水貯留施設が必要な箇所はまだ相当数必要であり、公園・学校等の公共施設以外での貯留施設整備の検討が必要である。			
		事業を縮小・廃止したときの影響	急激な都市化に伴い発生する大雨対策として、改修までに長い月日が必要な河川水路整備に代り必要な箇所に設置できる当該施設は、他に類似する事業がない事から廃止すれば治水行政の一部を果たせなくなる。			
	平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	サンハイツ児童遊園及び上新町地区に雨水貯留施設を早期に整備することにより浸水常襲地帯である小牧原新田地区の被害軽減をはかる。			
	平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)		
	判定理由	治水事業の一部として雨水貯留施設が必要な箇所はまだ相当数あり、継続的に事業を実施する必要があり、維持と判断した。				
	26年度以降の改善案	市街地において公園・学校等の公共施設の外、道路用地内の側溝や地下等も利用して雨水貯留浸透施設等設置を計画し、大雨によるピーク雨量を貯水し浸水被害の軽減を目指す。 また、雨水貯留施設を設置したのち、大雨の際に浸水状況や施設配置前と比較した状況変化について地元区からの意見を伺うなど、より効果が得られるよう検討を行っていく。				

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。